



誰もが暮らしやすい社会に向けて

アクセシブルデザインの発想 より多くの人が使えモノやコト

公益財団法人共用品推進機構 事務局長・専務理事 星川 安之様

卓話者紹介

高山 肇委員長

1980年自由学園卒業。同年(株)トミー(現:タカラトミー)入社、新設された障害のある子供たちの玩具開発部門が新設され配属されました。1999年障害の有無に関わらず使える製品・サービスの普及を行う(財)共用品推進機構を設立し、現在に至ります。平成26年度工業標準化事業 経済産業大臣表彰受賞。著書に「共用品という思想」、「アクセシブルデザインの発想」があります。

アクセシブルデザイン、という言葉聞いたことがあるでしょうか?これは、「福祉用具と一般製品の中間的な位置にある、多様な人の身体的・感覚的・認知的特性に対応した、直観的で分かりやすい工夫と、それを応用した製品とサービス」のことです。そう言うと、難しそう、あるいは、自分には関係ないことと思われるかもしれませんが、実はアクセシブルデザインは身の回りにたくさん存在しています。

日本は世界でもアクセシブルデザイン製品が突出して数多くあり、また、それに関連したルールづくりで世界をリードしています。私は、日本でアクセシブルデザインの考え方が生まれた当初からその活動に加わり、広がっていく過程に関わってきました。今回は、私がたどってきた道筋を通して、アクセシブルデザインを紹介していきたいと思います。

1992年10月、日本各地のドラッグストアやスーパーマーケットに、側面にきざみ(ギザギザ)の付いたシャンプー容器が登場しました。このきざみはもともと、目の不自由な人がシャンプーとリンスの容器を区別する印として考案されたものです。しかし、目が不自由でなくても、洗髪時に髪を濡らし、目をつぶってシャンプーに手を伸ばす大多数の人にとっても、このきざみは便利なものです。先に、「福祉用具と一般製品の中間的な位置にある」と言ったのは、そのように、障害のある人にもない人にも対応するという、アクセシブルデザインの特性を指しています。シャンプー容器の小さなきざみは、その後、日本工業規格(JIS)となって広く普及し、今ではほぼすべてのシャンプー容器につくようになっていきます。

さらにこの「小さなきざみ」は、アクセシブルデザイン製品の先駆けともなりました。「小さなきざみ」は市民権を得るとともに、同じような工夫が他の容器にも広がっていったのです。缶アルコール飲料の上部には、「おさけ」と点字で表示されており、目の不自由な人は、触っただけで他の清涼飲料の缶と識別することができます。

シャンプー、牛乳、アルコール缶飲料。それぞれ業界は異なりますが、消費者にとって便利な工夫が検討され、企業の垣根を越え業界共通のルールになっているところに、大きな特徴があります。

点字が付いて識別できる容器は他にも、ジャム、ソース、ケチャップ、入浴剤、ペットボトルなどがあり、今もなおその工夫は増え続けています。

障害の有無や年齢の高低にかかわらず、より多くの人にとって便利なモノやサービスは、日本で「共用品・共用サービス」と呼ばれ、1991年からその普及活動が始まりました。

容器以外にも、共用品は広がっています。多くの消費生活用製品には、ON-OFFスイッチのON側に、小さな凸点が付いています。そのため、明かりがないところでも、また目が不自由な人でも、どちらがONかを、触って知ることができます。

街に出てみると、都心を走るバスの多くには、車椅子をデザイン化した「国際シンボルマーク」と「ノンステップバス」の文字が書かれており、車椅子を使用している人が乗降をスムーズに行えるようになっていきます。車椅子使用者が、ホームから電車に乗り込む時に駅員さんが折り畳み式のスロープで乗降の補助をする仕組みも定着してきています。

電車やバス車内の行き先表示や、次の停車駅・停留所名の表示は、音声アナウンスだけでなく、液晶でも表示されています。以前、耳の不自由な人は、駅や停留所に着くたびに、そこが自分の降りる駅かを、目を皿のようにして確認しなければならなりませんでした。今では容易に情報を得ることができます。駅では、券売機に音声案内の装置が組み込まれ、改札では自動改札機にICカードをかざせば、音や表示でカードの残高が分かるようになっていきます。

国連が提唱した1981年の「国際障害者年」のテーマは、「完全参加と平等」。その後アメリカでは、1990年に「障害を持つアメリカ人法」(ADA法)が制定され、ユニバーサルデザインが提唱されるようになりました。さらに2006年に国連は、「障害者権利条約」を採択されました。日本から発信された共用品の考え方は、海を超え、国際標準化機構(ISO)で、ルールづくりのガイドとして制定されるまでになりました。そのガイドを作成する過程で、「共用品」は「アクセシブルデザイン」と訳され、国際的な共通語となったのです。

日本発アクセシブルデザインのモノとサービス。その一つ一つに、誰にとっても社会が暮らしやすくなるためのヒントが詰まっています。他国に先駆けて超高齢社会に突入した日本では特に、環境、システム、サービス、そして機器や用具が、誰にとっても使いやすいことが充実した生活を送るために重要です。

私が所属する公益財団法人共用品推進機構では、より多くの人暮らしやすい社会になるために、アクセシブルデザインの普及に今後も尽力していきたいと思っています。

閉会点鐘

牛島 聡会長

v 創立/1993年10月13日(平成5年)
事務局/〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-2-2
グランドメゾン九段 906号
Tel: 03-3288-7300 Fax: 03-3288-7400
E-mail: ocha-rc@sirius.ocn.ne.jp
<http://tokyo-orc.jp/>

例会日 毎週水曜日 12:30~13:30
例会場 ホテルグランドパレス Tel: 03-3264-1111
会長 牛島 聡 幹事 青木 隆幸
会報 山下 秀一(委員長) 山田 丈夫(副委員長)
土居岩生 木宮雅徳 小林大介 永井一史(委員)